

日本言語学会第 170 回大会 プログラム

会 長 定延 利之
大会運営委員長 小町 将之
大会実行委員長 嶋田 珠巳

期 日：2025 年 6 月 28 日（土）・29 日（日）
会 場：明海大学浦安キャンパス（千葉県浦安市）
参加費：会員（一般）2,000 円，会員（学生）1,000 円
非会員（一般）3,000 円，非会員（学生）2,000 円
事前登録 URL：<https://lsj170.peatix.com> （※Peatix のアカウントが必要。）
※ 事前に発表資料ページをお知らせするため，6 月 25 日（水）までの登録をお願いいたします。
※ 公開シンポジウムのみ参加される場合は，登録不要です。

—— 第 1 日（6 月 28 日） ——

10:30–12:00	評議員会	講義棟 1 階 2101 教室
12:00–	受付	講義棟 1 階
13:00–16:00	口頭発表（詳細は 2 頁にあります。）	講義棟 A～H 会場
16:15–17:30	ポスター発表（詳細は 4 頁にあります。）	講義棟 2 階
17:30–18:15	参加者交流会（会費無料。奮ってご参加ください。）	講義棟 1 階

—— 第 2 日（6 月 29 日） ——

9:30–11:30	ワークショップ（詳細は 5 頁にあります。）	講義棟 3 階
12:10–12:30	会員総会	講義棟 2 階 2206 教室
12:30–12:50	学会賞授賞式，会長挨拶，開催校挨拶	
13:00–16:30	公開シンポジウム「言語（学）にとっての「社会」」 <企画・司会> 嶋田 珠巳（明海大学教授） <登壇者> 上野 善道（東京大学名誉教授） 「同居家族 3 世代間に見る言語変化」 田窪 行則（国立国語研究所，京都大学名誉教授） 「公的場面と親密場面における言語使用について」 林 徹（放送大学教授，東京外国語大学フェロー） 「社会的な「壁」としての言語」 吉田 純（京都大学教授） 「テキストデータにみる公共圏／親密圏の生成の様相」 ※ 公開シンポジウムのみ参加の場合，登録不要。シンポジウムの様子は大会後に学会公式 YouTube チャンネルにて一般公開されます。	

■口頭発表（6月28日(土) 13:00-16:00）於・講義棟

	A 会場 講義棟 1 階 2101 教室 司会：[4,26,27] 田川 拓海	B 会場 講義棟 2 階 2201 教室 司会：[1,7,10,3,14] 吉田 健二
13:00-13:30	[4] 森 貞 「P と (は) {思わない/思っていない}」に後続・後起する「S もそう {思う/思っている}」について	[1] 宮崎 順大, 牧 秀樹 「が」・「の」主語嗜好性の調査法に係る検証: VAS 法及び穴埋め式テストを用いた検証
13:35-14:05	[26] 邢 立中 「じゃあ」との共起から見た日本語の勧誘文—談話構造に着目して—	[7] 大島 デイヴィッド 義和 格助詞ガの脱落に関わる情報構造・韻律的条件について
14:10-14:45	[27] 山口 洋輝 日本語願望構文の構造について	[10] 席 俊森, 江村 玲, 小泉 政利 日本語母語話者と中国語を母語とする日本語学習者による「ガ・ノ」交替文におけるノ格名詞句の解釈について
14:45-14:55	---	(休 憩)
14:55-15:25	---	[3] 小林 奏 上代語の従属節におけるガ格は活格か
15:30-16:00	---	[14] 原 基通, 藤井 友比呂 日本語における非主格・非対格の動詞共起要素の項性について: 容認度判断による研究

	C 会場 講義棟 2 階 2204 教室 司会：[15,20,35] 久保蘭 愛, [13,30] 李 林静	D 会場 講義棟 2 階 2205 教室 司会：[6,19,34] 小野 智香子, [8,16] 甲斐 ますみ
13:00-13:30	[15] 笠原 隆成 日琉諸方言における二項形容詞文の第二項の対格標示	[6] 菱山 湧人 タタール語の確定未来形: 非規範的表記から見る語幹末母音の狭母音化
13:35-14:05	[20] 廣澤 尚之 宮崎県椎葉村尾前方言における複雑述語の段階性	[19] 森 一, 木下 蒼一郎 ジョンはいかにして存在しないものを購入するか: ロシア語の人称代名詞の不定解釈について
14:10-14:45	[35] 下地 理則 南琉球宮古語伊良部島方言における再帰代名詞を用いた「物語の1人称」用法	[34] 松山 芳瑛 チェコ語における他動性の度合いを決定する要因について
14:45-14:55	(休 憩)	(休 憩)
14:55-15:25	[13] Xiaoshi QIU, Yunwen CHEN The Inner Aspect Analysis of the Directional Prefix (DIR) in Qugu Qiang	[8] 箱崎 光毅 道具機能を兼務する能格の通言語的分布と類型論
15:30-16:00	[30] 野島 本泰 ブヌン語巒社方言の語彙的接頭辞 <i>mu-</i> の意味論—移動・脱落・逆使役—	[16] 水野 庄吾 長さと拘束性に関する通言語的普遍性: 場所表現に注目して

	E 会場 講義棟 3 階 2301 教室 司会：[2,9,11,25,28] 北田 伸一	F 会場 講義棟 3 階 2302 教室 司会：[23,24,31] 甲斐 ますみ
13:00–13:30	[2] 松田 竜宙 日本語の右方転移文とコピュラ文の並行性	[23] 佐近 優太 インドネシア語における随意的な適用態接尾辞- <i>kan</i>
13:35–14:05	[9] 木村 宣美 多重後置文：後置要素を隣接させるための移動と削除に基づく分析	[24] 竹内 晶 古ジャワ語の有標 S-V 語順における対比的主題提示
14:10–14:45	[11] 藤巻 一真 日本語の動詞句分裂文の派生と動詞句前置との共通点について：項と付加詞の分布からの証拠	[31] 王 丹 ベトナム語における類別詞に関する考察
14:45–14:55	(休 憩)	---
14:55–15:25	[25] 内堀 朝子, 上田 由紀子, 原 大介 日本手話における引用 RS の構造領域：文末指さしに注目して	---
15:30–16:00	[28] 菅野 悟, 廣川 貴朗 <i>Can't seem to</i> 構文に対する極小主義的アプローチ	---

	G 会場 講義棟 3 階 2307 教室 司会：[12,21,36] 平山 真奈美, [22,29] 矢野 雅貴	H 会場 講義棟 3 階 2308 教室 司会：[5,32,33] 李 林静, [17,37] 浅尾 仁彦
13:00–13:30	[12] 呉 少晗 閉鎖音における「長短」と「硬軟」という対立パターンは如何に異なるか—日本語と朝鮮語をケースとするランダムフォレスト分析—	[5] 宮永 唯衣花 リトアニア語の移動動詞と共起する不定詞の格支配の通時的変化
13:35–14:05	[21] Hui-shan LIN Loanword Adaptation of Japanese Pitch Accent in Budai Rukai	[32] 伊藤 一輝, 山藤 顕 アフリカーンス語における比較級・最上級の形成—英語との比較を通じて—
14:10–14:45	[36] Amalesh GOPE, Tulika GOGOI, Sekholu TETSEO Intonational Avoidance in Chokri: How a Five-Tone Language Preserves Lexical Tone	[33] 藤本 千鶴 バローチー語の擬似等位接続構造の特色
14:45–14:55	(休 憩)	(休 憩)
14:55–15:25	[22] 熊谷 学而 重子音の頻度が音象徴的效果に与える影響：「かわいい」効果の減退	[17] 山口 真史, 伊藤 克将 統語的複合動詞の分類再考：2 種類か？ 3 種類か？
15:30–16:00	[29] 江村 玲, 鄭 嬌婷, 河地 庸介, 小室 竜也, 小泉 政利 音韻ループ下の文理解に関する fMRI 研究	[37] 田中 秀治 語彙的複合動詞と連濁の有無：分散形態論からのアプローチ

※ [18]は発表辞退。

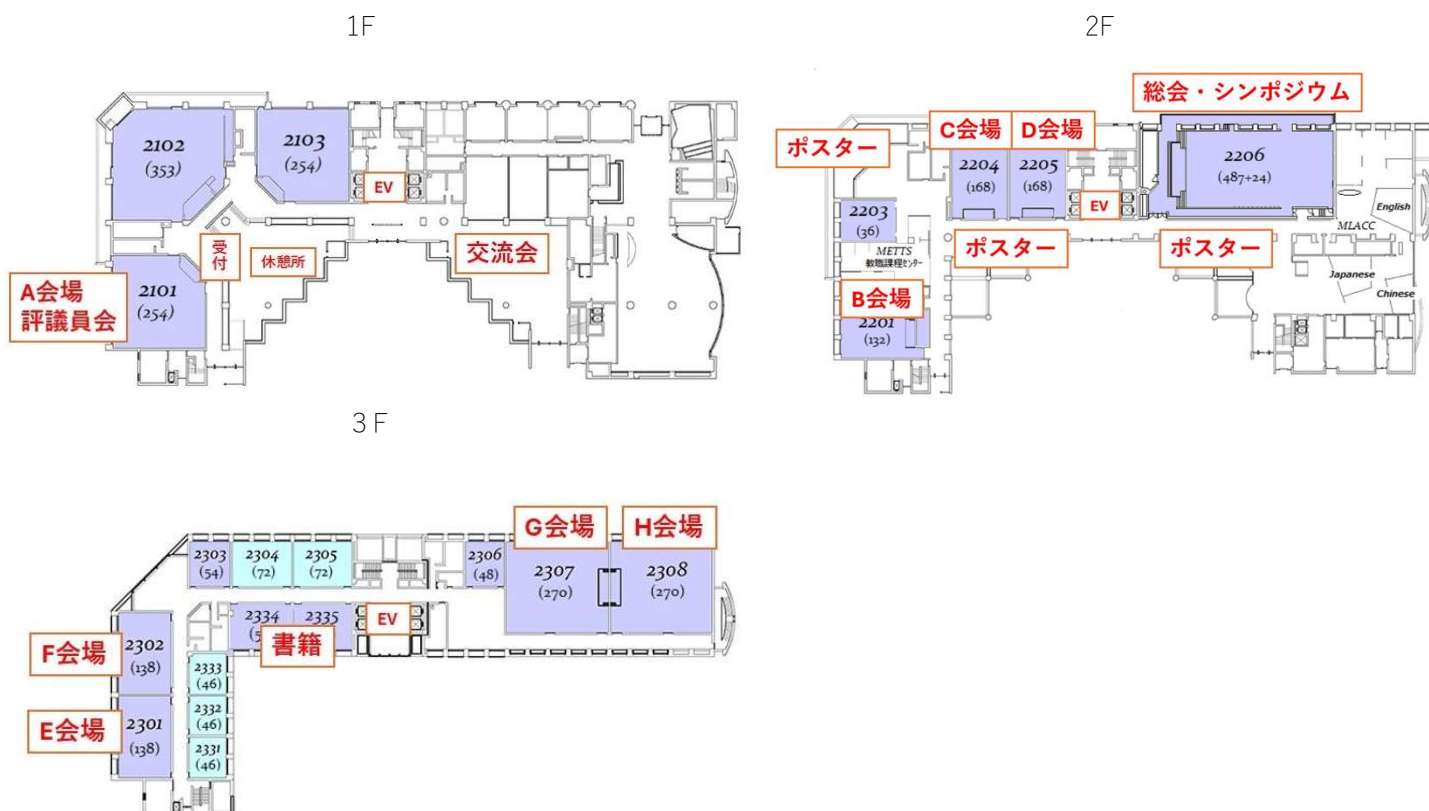
■ポスター発表（6月28日(土) 16:15-17:30）於・講義棟2階

P会場 講義棟 2階	[P-1] 牧 秀樹, 池田 真由子, 井上 結愛 『枕草子』における非標準的係り結び	[P-13] 阪口 慧 形容詞の意味分類における操作的定義の整理と検討
	[P-2] 鈴木 岳人, 水口 毅 組み合わせ範疇文法を用いた英文の平均長の解析	[P-14] 萬年 容 ビルマ語の助動詞 =lai? の用法
	[P-3] 岡本 進 フィジー語の二種の他動化した名詞抱合	[P-15] 金子 真 命令的意味を表すシヨウについての一考察：「代行的コミットメント」という観点から
	[P-4] 杜 乃岩, 平田 歩 普遍的な音象徴パターンとしての「韻律の長さ」と「対象物の強さ」の相関関係	[P-16] 胡 春霞, 中野 陽子 日本語の文処理における促進性干渉効果について—遊離数量詞を含む文を用いて
	[P-5] 邊 姫京 日本語諸方言におけるアクセント核の無声化生起率への影響	[P-17] 今西 一太 アミ語における書き言葉文体の成立
	[P-6] Chihkai LIN Phonological Complexity of Otsu-rui <i>i</i> (-wi) in Old Japanese: From a Corpus-Based Approach	[P-18] 福田 真理子 モンゴル語ウジムチン方言における方向格—形式と使い分けについて—
	[P-7] Yosuke SATO Free Exceptive Sluicing in Japanese	[P-19] 朝日 祥之, 高野 照司, 太田 一郎, 松田 謙次郎 現代日本語の音調句生成の変異とその制約条件: 東京語話者の自発音声データを用いた検証
	[P-8] 黒崎 まひろ 準体句の派生と主名詞につく助詞「の」の分類について	[P-20] 梁 為棟 与那国方言の非自発的完了表現
	[P-9] 内田 まりな 中国語における呼称の位置: ミステリードラマの用例から	[P-21] 佐藤 詠子 ベトナム語形容詞における重複表現と意味クラスの関係
	[P-10] 小林 真緒 フィンランド語の話し言葉における「受動形」を使用した用法の再分析	[P-22] 鎌野 慈人 大阪方言における語頭・語末の境界音調の分析
	[P-11] 角出 凱紀 日本語におけるメタファーに基づく合成語の分類: 「方向音痴」「看板娘」の位置付けをめぐって	[P-23] 高橋 翼 口語インドネシア語における <i>apa</i> の使用: 選言接続詞か、疑問標識か?
	[P-12] 泉 大輔, 細谷 諒太 「文の包摂」の対照研究に向けた予備調査—日本語・英語・韓国語を比べよう! キャンペーン—	

■ワークショップ（6月29日(日) 9:30-11:30）於・講義棟

F 会場 講義棟 3 階 2302 教室	[W-1] チュルク諸語における多回接辞と複数行為性 企画者：日高 晋介 司会：菱山 湧人 コメンテーター：菅沼 健太郎
	[W-1-1] タタール語・バシキール語の多回接辞の諸機能について 菱山 湧人
	[W-1-2] サハ語・トゥバ語・ショル語・アルタイ語・キルギス語の多回接辞の対照 江畑 冬生 アクマタリエワ・ジャクシルク
	[W-1-3] トルクメン語・ウズベク語・キルギス語における複数行為性 日高 晋介
G 会場 講義棟 3 階 2307 教室	[W-2] 一致を導き出す統語メカニズムを探る 企画者・司会：宗像 孝
	[W-2-1] 一致再考：デフォルト格の観点から 森竹 希望
	[W-2-2] MC における一致関係 大宗 純 小町 将之
	[W-2-3] Pro 主語を作り出す一致関係 宗像 孝
	[W-2-4] MC における <i>wh</i> 演算子のアクセス 林 慎将
H 会場 講義棟 3 階 2308 教室	[W-3] 言語に現れる離散と連続：一般性と個別性の調和を目指して 企画者・司会：田中 太一 コメンテーター：西村 義樹
	浅岡 健志朗
	[W-3-1] 意味の枚挙に伴う理想化と概念分析による基礎付け 石塚 政行 鄭 宇鎮
	[W-3-2] 品詞・語類の連続性とは何か 石塚 政行 松田 俊介
	[W-3-3] 意味地図は文法形式の意味を枚挙できるのか：韓国語のヴォイス形式 <i>-eci-</i> の事例 鄭 宇鎮 田中 太一
	[W-3-4] メタファーとしての言語理論 田中 太一 浅岡 健志朗

◆会場配置図（講義棟）



◆キャンパス周辺図



◆会場までの交通アクセス

以下のページをご参照ください。

明海大学浦安キャンパス地図

<https://www.meikai.ac.jp/access/>

◆大会期間の昼食（※営業時間を拡大する方向で情報更新の可能性あり）

大学内の以下の食堂が営業しています。

6月28日（土）：

学内レストラン ニューマリーンズ（営業時間 11:30~16:30 オーダーストップ 16:00）

6月29日（日）：

学生食堂 マリーンズ（営業時間 11:00~14:00 オーダーストップ 13:30）

お知らせ

◆ 発表要旨集

発表要旨集は大会の1か月前までを目安に学会ホームページから電子版（PDF ファイル）がダウンロードできるようになります。紙媒体での頒布はありませんので、事前にダウンロードをお済ませください。
※従来の予稿集は第168回大会をもって廃止されました。

◆ 発表資料共有ページ

オンラインで事前登録した方には6月26日（木）頃に発表資料共有ページの URL をお知らせします。当日会場で申し込みをされた方は、大会参加証をご確認ください。

◆ 書籍展示

書籍展示は、講義棟3階2334、2335教室で行う予定です。

◆ 資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

◆ 出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、6月2日（月）（必着）までに学会事務支局までお申し込みください。

事務局からのお知らせ

本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として定めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトで確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回研究大会予告（2025年秋季大会：第171回大会）※詳細は学会ホームページをご確認ください。

場 所：岡山大学

日 程：2025年11月22日（土）・23日（日）

- ・発表応募締め切り 2025年8月20日（水）（必着）
- ・採否通知 2025年9月中旬

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com